

終戦から66年目。伝えたい...

戦争の記憶・記録

『戦争・空襲』・・・戦争を知らない世代が増えてきた現在では、どこか、遠い場所での話のように聞こえては、いないだろうか。

度重なる空襲の脅威

昭和14〜20年までの約6年間にわたり、世界中を戦場と化した第2次世界大戦。その犠牲者は、全世界で数千万人といわれています。日本国内では、昭和19年7月の米軍によるサイパン島占領以降、本土のほとんどがB29爆撃機の航続距離内に入ったことで、空襲にさらされることになり、県内も、軍需・軍事施設が存在するところから多数被害に遭いました。

特に「熊谷空襲」での被害は大きく、終戦間際の8月14日深夜〜15日の未明にかけて80機余りのB29爆撃機が熊谷を襲い、266人の尊い命が奪われました。

深谷を襲った空襲

熊谷空襲のあった昭和20年8月14日。深谷市内でも空襲がありました。

記録によると、午後11時すぎ、米軍の爆撃機が房総方面から日本

本土に侵入し、熊谷、前橋、伊勢崎などを空襲。その編隊の一部と思われるB29爆撃機が、市内(当時中瀬村)の利根川堤防沿い川岸地区の東部から原地区の中瀬神社

までの間約1kmに焼夷弾を投下しました(5ページ図参照)。

投下された焼夷弾は、空中で炸裂と同時に油脂に燃え移り、火の雨をまき散らしました。直撃を受



▲空襲後の熊谷 近藤醤油倉庫の壁 (撮影：佐藤虹二氏)

けた木造建物は一瞬にして炎に包まれたといえます。

この空襲による被害は、死者2人、重傷者3人、被災戸数13戸に及びました。

死者	2人
重傷者	3人
被災戸数	13戸

▲中瀬空襲の被害

赤く染まった空を眺める日々

当時は、昼も夜もなく、どこかしらで空襲が行われていました。特に、8月14日はいつもの比ではなく、夜になるとそこら中の空が赤く染まって見えました。わたしは、自宅から北へ200mほど行ったら利根川の土手で呆然と眺めていました。

夜中の12時ごろだったでしょう。突然、グオーと頭の上を飛行機が通ったかと思うと、バタンバタンと爆弾が落ちてきました。逃げる間もなく、まさにあつという間でした。焼けた家屋、知人の死。ひどいありさまでした。

翌日の玉音放送は、昨晩の空襲の影響で聞こえませんでした。

ませんでした。ですがその日、働いていた飛行機工場の門が閉まっているのを見て、終戦を予感しました。

数日後、人つてに終戦を聞かされた時は、不思議と納得したので覚えています。



中瀬空襲の体験者 齋藤七郎さん (97歳・当時31歳)

埼玉県平和資料館 (無料利用券)

無料利用券

この券を切り取ってお持ちください。平和資料館に無料で入館いただけます。

- 利用期間 8月1日(月)～9月30日(金)
- 対象 代表者が深谷市民のグループ(家族や友人など)

9月4日(日)までは、通常展示のほか、テーマ展『戦争と動物たち』も実施していますので、ぜひ、お早めにご利用ください。

利用者数	利用日	月	日
利用者数	大人	人	人
	高校・大学生	人	人
	中学生以下 または65歳以上	人	人
	障害者 および付添人	人	人

埼玉県平和資料館で戦争について考えてみませんか

埼玉県平和資料館は、戦争体験の伝承と、平和な社会の発展のため、平成5年に開館した県の施設です。館内には、県民と戦争とのかわりが理解できる『常設展示』や、戦時中のある1日を疑似体験できるコーナーなどがあります。

このたび、市では非核平和を推進するため、埼玉県平和資料館にご協力いただき、無料利用券を発行することとしました。



▲疑似体験コーナーでは、防空壕や戦時下の教室など、実際に中に入って体験できます

ぜひ、夏休みを利用して、家族や友人などお誘いの上、お出掛けください。



当時を語る遺物

戦争の悲惨さ・・・

それは、体験者にしか、本当の意味では分からないのかもしれない。しかし、戦争の遺物とそこに残る記憶は、今の平和の尊さを伝えてくれます。家族や近所の人など、身近な人たちもさまざまな思いを持って現実と闘っていました。戦争は、決して自分と懸け離れた話ではありません。まずは、そのことを知ることが、未来の平和を守る一歩となるのではないでしょうか。

中瀬村に降った焼夷弾の雨



この焼夷弾(下写真)は、戦後、帰還した父親が、自宅西の畑の中から拾ってきたものです。当時は、畑の中に幾つも爆弾による穴が開いていました。このような焼夷弾は、地表にそのままあるのではなく、その穴の部分を掘ると姿を現しました。縁の下には、このほかに、掘り起こした焼夷弾が、幾つも残っています。当時、わたしは4歳でしたが、空襲の恐怖は、強烈な記憶として



▲河田さん宅に残る「焼夷弾の残骸」

脳裏に焼き付いています。空襲のあった8月14日の夜。わ

たしは、祖母と母親、兄弟やいとこの家族たちと防空壕へ避難していました。5〜6畳ほどのスペースにおそらく10人くらいは入っていたと思います。やがて、炎が迫ってきたため裏の桑畑に逃げましたが、その際、隣家の炎の勢いがすさまじかったこともあり、現在でも炎を見ると背筋に悪寒がはります。わたしの家はというと、防空壕付近の南門へ爆弾が直撃し、辺りは火の海と化していました。南門は全焼、塀の一部、前蔵、裏門、みぞ蔵なども半焼する被害に遭い

戦争の記憶を訪ねる

●旧東京第二陸軍造兵廠深谷製造所給水塔 (原郷1118)



周辺の軍施設に給水するために建設された塔で、一時期は松根油を採取する装置も設けられていました。内部は5層構造で、昭和30年以降は住宅として改造されています。鉄筋コンクリートのラーメン構造が外観にそのまま現れており、その特異な外観で知られています。

●英霊塔



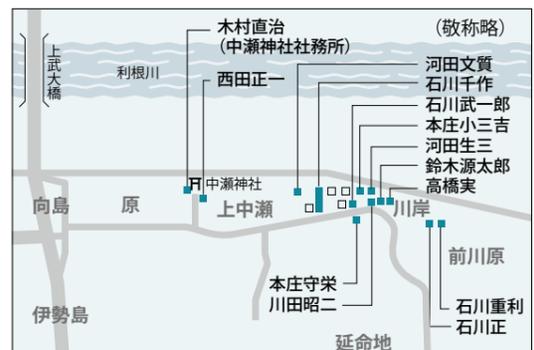
市内には、戦没者の慰霊のための英霊塔などが大小合わせて13基あります。

市内全体では、2,558柱の戦没者の霊が祭られており、写真の英霊塔(瀧宮神社内)には、旧深谷市域の戦没者の霊1,586柱が合祀されています。

ました。南門では、当時37歳の女性が焼死。一緒にいた8歳の少年も全身やけどを負い、少し東へ行った所で亡くなりました。女性が焼死した場所には、4〜5年の間、人間の脂が残っていたことを覚えています。今では、普段の生活の中で、このようなことを思い出すこともなくなりましたが、この焼夷弾を見ると当時の記憶がよみがえります。モノには罪はありません。これ

を作るのも人間、使うのも人間です。戦争というものが罪であり、一度と繰り返してはいけません。父の言葉で心に残っているものがあります。『終戦を知った時、ちよつと拳銃や軍刀を手に持っていたら、死んでいたかもしれない』戦争というものが、どれほど当時の人たちの心を縛っていたのか、計り知れません。拾ってきた時オリーブグリーンに塗られていたこの焼夷弾も、今

ではすっかり茶色いさびだらけになってしまいました。時間は刻々と経過していますが、戦争の経験は決して風化させてはいけなと思っています。今を生きる子どもたちに、あんな思いは絶対にさせたくありません。この焼夷弾の残骸は、当時の悲惨さを物語ると同時に、今の平和がどんなに尊いものであるのかを、わたしに語ってくれているのです。



▲中瀬村被災者見取り図 (原図：故深町吉氏作成)

無料利用券

埼玉県平和資料館
 <ご利用案内>

- 住所 埼玉県東松山市岩殿241 - 113
- 電話 0493 - 35 - 4111
- 開館時間 午前9時～午後4時30分 (入館は午後4時まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日休日の場合はその翌日)

※8月15日(月)は開館、9月13日(火)・14日(水)は臨時休館

